

# 私立大学研究ブランディング事業

## 平成29年度の進捗状況

学校法人番号	021004	学校法人名	八戸工業大学		
大学名	八戸工業大学				
事業名	北東北の人口減少社会における自律的課題解決に向けたハブ機能構築と社会的資本の維持開発研究事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	1600人
参画組織	大学院工学研究科、工学部、感性デザイン学部、基礎教育研究センター、地域産業総合研究所、工作技術センター				
事業概要	<p>地域大学としての本学の特徴は、地域課題やリソースに関する情報を集約して、解決「工程」を示すことができる点にある。企業と生活者が行政とともに自律的かつ主体的に地域発展に携わり、雇用創出と定住者拡大が実現できるよう、社会資本および社会的資産に関する研究と地域資源・地域課題に関する情報集積機能を強化するとともに、ブランディング活動を通じて地域に不可欠な課題解決ハブとなる大学となるための諸施策を講ずる。</p>				
①事業目的	<p>本事業では、北東北地域の課題とめざす姿に対する地域の工学系の大学としての役割と本学のこれまでの実績を背景として、寒冷地域かつ人口減地域における防災および社会インフラの長寿命化技術の開発研究をさらに加速させると共にインフラ・まちづくりに関わる社会システムを新たな研究テーマとして設定し実施する。さらに、これらの研究を基盤としてインフラ・地域づくりに関連する人材の育成と研究成果の社会実装も含めた総合的インフラ研究拠点を構築することで本学の独自色を地域に打ち出すことを目指す。また、これらの活動を通して、地域の「安全・安心・快適な暮らしの創造」と「農林水産業・工業・観光業など産業・雇用の活性化」に貢献することを目的とする。</p>				
②平成29年度の実施目標及び実施計画	<p><b>【実施目標】</b>  ○研究実施プロジェクトチーム  (A) インフラ社会システム研究部門:インフラ社会システムのプラットフォーム構築準備  (B) インフラ基盤技術研究部門:要素技術の整理・開発  (C) 防災技術研究部門:被害予測のための基礎情報の把握  ○人材育成・社会実装推進プロジェクトチーム  地域のインフラ・マネジメントを担う人材育成プログラムを検討するとともに、その展開のための産学官連携の基盤整備  ○ブランディング推進プロジェクトチーム  ブランディング計画の立案と一部実施</p> <p><b>【実施計画】</b>  ○研究実施プロジェクトチーム  (A) インフラ社会システム研究部門:人材育成手法開発の端緒となる教育機関や関係機関に加え、人口減少に応じたインフラ最適化を図る行政と都市開発関係機関との連携接続の構築。  (B) インフラ基盤技術研究部門:これまで得られている知見・情報等を整理して課題抽出し、システム・実用化の全体像を把握した上で、必要な要素技術の開発を実施する。  (C) 防災技術研究部門:地震・津波・雪氷・豪雨・火災等の被害予測のための基礎情報や地域の災害特性の把握を行う。  これらの達成度は、関係機関との連携の程度、論文・学外発表の件数によって測定する。  ○人材育成・社会実装推進プロジェクトチーム  青森県内における建設技術者の人材育成ニーズに関するアンケート調査結果を参考に、これまでに蓄積された学内資源を活用し地域のインフラ・マネジメントを担うことができる人材育成プログラムを検討する。また、産官学連携によってプログラム構築することにより、地域展開を速やかに推進するための基盤を整備する。その達成度は学内資源の活用やプログラム構築、関係機関との連携の程度によって測定する。  ○ブランディング推進プロジェクトチーム  在学生に対する事業計画の情報提供。事業に関係するSNSの利用計画の策定と事業Webサイトの構成内容の確定。地域シンポジウムと地域ワークショップの実施計画の策定。地域の高校との協同事業に関する状況調査。導入転換・キャリアデザイン教育の試行的実施と次年度シラバスの作成。アニュアルレポート作成を行う。</p>				

③平成29年度の事業  
成果

○研究実施プロジェクトチーム  
 学内の研究シーズの整理、各研究部門内における実施課題の洗い出しと、研究グループの細分化による研究テーマの設定および実施体制の構築を行った。

○人材育成・社会実装推進プロジェクトチーム  
 平成30年3月11日に3.11防災フォーラム2018(一般市民向け)、平成30年3月15日にコンクリート建造物の品質・耐久性確保に関する講習会(社会人技術者向け)を開催した。青森県県土整備部・企画整備部と、社会人技術者向けの人材育成プログラムについて検討した。

○ブランディング推進プロジェクトチーム  
 本事業のWebサイトを立ち上げ、学内及び学外に周知を行った。今後、活動状況や研究成果について随時公表する。

④平成29年度の自己  
点検・評価及び外部  
評価の結果

(自己点検・評価)  
 研究ブランディング事業推進会議にて、指標をもとに、自己点検・評価を行った。

○研究実施プロジェクトチーム

<指標>	<目標>	<実績>	<達成度>
(1) 査読付き論文・国際会議発表件数	8件	13件	162%
(2) 口頭発表の件数	19件	22件	115%

○人材育成・社会実装推進プロジェクトチーム

<指標>	<目標>	<実績>	<達成度>
(1) 地域の産学官連携の基盤整備	2件	3件	150%
(2) 人材育成・社会実装プログラム数(講演会、講習会など)	19件	22件	115%
(3) (2)の講師数	3人	4人	133%
(4) (2)の参加人数	50人	255人	510%

○ブランディング推進プロジェクトチーム

<指標>	<目標>	<達成度>
(1) 在学生に対する事業計画の情報提供	75%	50%
(2) 事業Webサイトの構築内容の確定	75%	30%
(3) 地域シンポジウム・ワークショップの実施計画の策定	100%	100%
(4) 地域の高校との共同事業に関する状況調査	100%	0%
(5) 導入転換・キャリアデザイン教育の試行的実施とシラバスの作成	50%	30%
(6) アニュアルレポートの作成	50%	30%

地域の高校との共同事業に関する状況調査についてはアンケートを作成中であり、平成30年度中に調査を完了する。

今年度の目標値は概ね達成できた。今後は、行政機関・企業・市民など地域の意見を取り入れながら、さらに研究開発の推進及び人材育成・社会実装プログラムの試行・改善を図る。また、インナーブランディング・アウトナーブランディングのプランを明確にし、活動を行う。

(外部評価)  
 平成30年3月26日に八戸工業大学教育研究後援会 点検・評価部会を開催し、外部評価を行った。今度の事業成果および来年度の実施計画を説明し、以下の評価・意見を頂いた。

○インフラ・防災・まちづくりなど、これまでも地域の課題解決に取り組む研究を行っており、また、産学官連携など学外との有機的な連携体制が構築され、実質的な活動も進められていることは高く評価できる。一方で、八戸工業大学の「ブランドイメージ」「魅力」を多くのステークホルダーに、目に見える形で、どのように広報していくかが今後の課題である。ターゲットに合わせた戦略を検討することが必要である。

○産業界としても、地域の人材流出、技術力の流出は喫緊の課題である。地域の企業からは、研究・製品開発に対し、産学官で連携して取り組みたいという声も多く聞いている。大学が持つノウハウ・技術をもって、地域企業に提案・支援を行い、課題解決につなげてほしい。

⑤平成29年度の補助  
金の使用状況

研究費:ガスクロマトグラフ質量分析計、無響音室修理 一式、LCRメータ  
 広報・普及費:チラシ印刷  
 その他:研究打合せ旅費、外部講師等招聘謝金・旅費